

★2011/12/11 辻堂海浜公園へ Run for Peace★インタビュー

大道理映リーダー（イベント直後、片付け中のコメント）

今の率直なお気持ちは？

まだまだ、片づけなきゃ～と落ち着かないです。まだ、続いています。



今朝起きたときはどんな感じでしたか？

ん～、前の晩もなんだかんだ準備しながら、3時ころ寝たので、…起きたときは「あ、朝だ、起きなきゃ、って（笑）」

2～3日前から、メンバーもみんな変にハイテンションで、すごかったんですよ！

もう最後のほうは、コアメンバー5人が、それぞれ得意なことを自ら率先して黙々と進めてくれた感じです。知らない間にやってくれてたりして。

いちばん大切にしていたことは？

私たちのチームでいちばん、すごいな、と思うのは、「責め合わない」ことなんですね。

「あ～、まだ、これできてないじゃん！いつできるの？」っていうふうじゃなくて「まだこれやれてないね。やばいじゃん。私やろうか？」っていう感じ。

最初に、「できる人ができることをやろう」と約束して、メンバーもそういう集め方をしたので。

もっと、論理的な考え方ができて、PCスキルやIT活用ができれば、もしかしたらもっと人が集まったり、お金が集まったりできたかもしれない。でも、私たちは「思い合える」を優先に進めてきました。

たとえばね、ランニングコース内での人員配置、とか。別に機械的に、じゃあ〇時～〇時、ここは何人、ってあてはめていけばできるんだけど。それをしなかったの。みんなが気持ちよくできるように、イベント会場から離れないように、できるだけ配慮して、夜中まで考えてくれた人がいるんです。

そういうあったかさを大事にしたかったら、こんなふうに、あったかいイベントになったのだと思う。

いちばん大変だったことは？

やめたい、とか、できないかもしれない、とかは思ったことはないんです。ただ、最初か

ら不安はありました。「本当に人が集まるかなあ」とか。

で、こんなことやりたいんだけど、どうかな、と仲間に聞くと、「ああ、じゃあ〇〇ちゃん
のママに聞いてみるよ。」ってその場で携帯で電話するとか。そんなんで、人と人のつな
がりを実現しました。ママ友パワーです！（^_^;）携帯メールの威力ってすごいよ～！

来年もやりますか？

メンバーと相談します。主婦ばかりなので、家族の応援
（家事や子供の世話）がなきゃできないから（笑）。
けっこうやりくりが大変だったから。



明るく、あっけらかんと、250 人ものイベントを「主婦パワーで乗り切った！」と言
切る大道理映（おおみち りえ）リーダー☆素敵すぎです！！

そんな大道リーダーを支えたご主人（まだイベントの最中にちょこっとお話を伺いました）



「本当にみなさんのおかげですよ。尋常じゃないパワーを感じ
ています。こんなふうには、利害関係なくご近所同士が集ま
って、すごいですよね！ほんという、大変過ぎてどうなる
ことかと心配してました（笑）。（準備中は）何かというと家
に集まっているいろいろやってるから、自然に、自分が皿洗った

り、子どもの世話したり…。まあ家族みんな（お子さん2人）でやれた Run for Peace で
すね。最初はどんなイベントになるのか想像もつかなかったけど。

もう、こうなったら、今日の天気だけが心配でした。東京から自分の友だちも呼んじやっ
たし。こんないい天気になって、ああ、やった甲斐があったなあと思います。」

参加者のおひとり **木幡さん**（76 歳のご近所に住むおじいちゃん）

「やあ～、楽しかった！楽しかった！」と 10k を走り切った木幡
さん。額に汗と、満面の笑みを浮かべてゴールまでいらしてください
ました。

「最初はねえ、チラシが入っていたんだよね。それを見て知ったん
だけど、正直言って何のことなのかよくわからなかった。でも、走
るってわかって、すぐ申し込んだんだよ。走るのはいいいよね～。ま



た来年もやってね。」

ご家族4人で参加の菅野さん（37歳）

イベントが終わってからも家族で芝生の上でボール投げをして遊んでいるところをお話伺いました。

「川崎から家族4人で、2時間かけて来ました。Run for Peaceは、代々木であったヤングアメリカンズのワークショップで知ったんです。もともと、お父さん（ご主人）とおねえちゃん（長女：小学校3年生）は、近所を走ったりしていたから、ちょうどいいかな、と思って。いいお天気でほんと楽しかった！娘は、5周走ったかな。私も走ろうかな、といういい機会になりました。」

ヤングアメリカンズのワークショップに参加。当日はライオンキングを歌って踊って見せてくれた幼馴染のふたり、（17歳・高校生）

小学生のころからの友だち同士。ヨウヘイ君は中2のとき、ユカちゃんは高1で、ヤングアメリカンズに出会う。

ユカちゃんは、悩んでいる人や、言いたいことがうまく言えずに苦しんでいる人を見ると、「ヤングアメリカンズにこればいいのに、と思う」と。実際、そんな友達を連れて、



ヤングアメリカンズのワークショップに出たが、そのとき、それまで感情を表に出したことの無いその友人が「ボロボロ涙を流していたのを見て、びっくりした」のだそう。

「知れば知るほど、いいな～と思う」のだそうだ。

幼馴染のユカちゃんに言わせると、「とても人前で歌ったりするようなタイプじゃない」ヨウヘイ君は、実はもともと歌や踊りが好きだったという。ヤングアメリカンズでないと出会えない人がいっぱい。僕は、たまたま時間があって、ワークショップに通えるような時期に出会えたから、通ったけど、兄貴は部活が忙しくて行けなかった。きっかけなんて、偶然だけど、ホントよかった。

たくさんの人に、ヤングアメリカンズを知ってほしい？と尋ねると、ふたりは「ふふふ」と笑いながら、「本当はそうです、と言うべきなんだろうけど…、あんまりたくさんの人が知っちゃうと、僕らがワークショップに参加する機会が減るから…」と。正直者だ！

ふたりの笑顔は屈託なく、質問にもハキハキと大きな声でしっかり自分の意見を答えてくれる！こんな高校生が日本に増えたら…！未来は明るい！！そんなふたりが心から愛するヤングアメリカンズ情報はこちら→<http://www.jibunmirai.com/>

ボランティアスタッフの二人 池辺さんと藤田さん

二人は今日初めて出会った。たまたま偶然東京から乗った電車で隣り合わせたそう。知らずに現地（辻堂海浜公園）に着いてみると、さっきまで隣に座っていた人が！（笑）



池辺さんは、ICP（株式会社エ・ム・ズのコーチ養成プログラム）卒業生。Run for Peaceを知った時から、興味があり、「主催してみたい」と思った。

藤田さんは、NLP を学んでいて、その知り合いから「あきたいねみ」さんを教えてもらった。ちょうど講演会があるから、と勧められ、11/28 東京での「あきたいねみ出版記念講演会『そろそろ走ろっ！』」に参加し、今回のボランティアスタッフに手を挙げたのだそう。開催のわずか10日前である。人生わからないものだ。

きっかけがあり、その後行動する。その繰り返しが人生を創る。どう彩るか、どう形作るか、中身に何を入れるかは、自分次第。自由だ——！！

二人は「みんなの走っている顔がめちゃくちゃ楽しそうでよかった！お父さんと子ども、とか。ご夫婦で手をつないで歩きながら楽しそうにお話している姿とか…本当にいい☆」と口を揃える。こんなに楽しいイベントだなんて、知らなかった。参加して本当に良かった。と(^_^)

池辺さんは地元茨城で Run for Peace を開催したいと言う。コアスタッフが、今日ひとり決まりました！（^_^)-☆

（聞き手・文責 ミネッチ）